

第1回案内書

# WLC16

## 第16回世界湖沼会議

2016年11月7日～11日

於 インドネシア共和国 バリ島

湖沼生態系の健全性と回復力：  
生物多様性と種の絶滅の危機



主催:

インドネシア環境林業省 インドネシア公共事業住宅省 インドネシア科学院 (LIPI)

共催:

公益財団法人国際湖沼環境委員会 (ILEC)





## 開催の背景

湖沼には、自然湖、人造湖、淡水湖、汽水湖などさまざまなものがありますが、いずれも地球上の重要で表情豊かな景観をつくりだしています。また、何世紀にもわたり世界中で人間の文化的発展の中心にあり、その生態系は増加する食糧供給や安全な飲み水をはじめとする人間の健康と幸せに必要な水の需要を満たし、インスピレーションと創造性、そして精神の発露としての風景（これは、人間の生活を豊かにし向上させる「ハートウェア」を構成しています）となってきました。従って湖沼は、修復され絶えず保全されるべき地球の遺産です。そのためには、生命を支えてくれるその生態系サービスをはじめ、他の水界生態系とのつながりも強めていかなければなりません。こうしたつながりは、科学とガバナンスにおいて重要な意味を持っているのです。



もちろん、すべての湖沼はその生成過程や形態、または流域の社会・経済的状況において異なっていますから、それぞれ社会経済的、文化的、生態学的に見ればある程度特有の問題や固有の性質を持っています。また、人間の生活において多様な用途に利用されており、単に水源としての機能だけでなく、とりわけ生態系の平衡を保ち、洪水・干ばつ・気候変動を防ぎ、多様な生物に生息地を提供するなど、重要な働きをしています。さらにこうした淡水動植物の生物多様性に加え、エコツーリズム、研究開発、発電に寄与し、文化保全においても大きな役割を担っています。



その一方で皆さんもご存知のように、人口増加、表流水利用の激化、水辺資源の搾取、その他の人的負荷のために湖沼はますます脅威にさらされています。水質の劣化、やっかいなアオコ、水草の過剰繁殖、悪化する漁場、沈殿物の堆積、汚染、沿岸侵食などは人間の活動により発生

した共通の問題です。こうした問題は、湖沼の周辺地域の社会経済的状況はおろか、いずれ国家や世界全体の経済・社会的発展にも影響を及ぼしかねません。今後発生する湖沼管理の課題に対処するため、政府と非政府双方の利害関係者間の協力と結束がより強化され、発展していくことが求められています。

## 世界湖沼会議について

世界湖沼会議（WLC）の歴史は、1984年に滋賀県の琵琶湖畔で開かれた「世界湖沼環境会議：LECS'84」にさかのぼります。以来、同会議は世界の湖沼管理における科学的アプローチの促進に寄与することを目的に開かれたLECS'84の後身として、世界各国で開催されてきました。これまでの開催国は、米国、ハンガリー、中国、イタリア、アルゼンチン、デンマーク、ケニア、インド、日本です。そして今日、WLCは多種多様な参加者（研究者・行政担当官・NGO関係者や市民等）が一同に集まり、湖沼とその流域の持続可能な管理のために意見や経験を交換する議論の場として国際的に知られています。



## 前回の WLC : WLC15

こうした考えのもと、2014年9月1日～5日にイタリアのペルージャで開催された第15回世界湖沼会議（WLC15）では、ペルージャ宣言が発表されました。同宣言は、「淡水はあらゆる生命の根源であり、無限にあるものではなく、人間活動に対して非常に脆く、またその多くの用途には他に代用できないものである」と述べています。過去数十年間、人間と生態系の水需要への取組においては大きな進展がありましたが、湖沼とその他の静水システムの持続可能な生態系サービスを確かなものにするための効果的なガバナンス、能力、財政基礎を確立するには、市民社会とその政府にとって未だ手探りの状態が続いています。

ウンブリア科学ミーティング協会（USMA）主催、公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）共催により開催された WLC15 は、湖沼管理に共通の懸念となっている多数の問題に対処し、関与する国家間と利害関係者間の協力を強化する機会となった最も重要な会議のひとつとなりました。こうした連携は、最良の実施例や知識、データ、情報伝達の共有によって実現されてきました。会議参加者間の有益で率直な議論を通して、WLC15 は湖沼管理における甚大な課題に意味ある対策を講じるための適切な政策、戦略、プログラム、アクションを明らかにしたのです。

## WLC16

僭越ながら、インドネシア政府はこの第 16 回世界湖沼会議（WLC16）を主催することにより国際社会に貢献するとともに、とりわけ多様な利害関係者の経験と最良の事例を共有することでさらなる知識と理解を得たいとも考えています。また、会議を通して湖沼管理の課題に対する熱意と情熱を再び活性化し、再燃させたいとも望んでいます。湖沼生態系の保全は避けて通れないわたしたちの使命です。そのうえで、湖沼生態系の保全に向け、国家間をまたぐ湖沼の社会が協力し、世界的な行動を追求すべき分野が数多くあると、わたしたちは見えています。



信念を固く持ち、果敢に行動しましょう。地球上の生態系とすべての人々の未来、そして次世代の行末のために湖沼の保全と復興を支えることは、わたしたちが果たさなければならない使命です。立ち止まることなく、この先何年にもわたる努力と思案を続けていかななくてはなりません。だからこそ、世界中の湖沼管理に携わるすべての利害関係者、政府と非政府組織の皆さまに、インドネシア共和国の政府を代表しご挨拶申し上げます。2016 年 11 月に本国で開催される WLC16 にぜひ、ご参加ください。

## 会場

- ウダヤナ大学（バリ島・ジンバラン）
- ガルーダ・ウィスヌ・クンチャナ文化公園

## 会期

2016年11月7日（月）～11日（金）

## プログラム（予定）

### 主要イベント

- 全体講演/式典
- 科学分科会
- 各種フォーラム

### サイドイベント

- 国際/地域政策対話
- フィールドトリップ
- 特別ワークショップ：インドネシア・アジアの湖沼管理 sh
- 湖沼管理の地域協力の枠組開発（主な対象：東南・南アジア）
- その他各種サイドイベント（対象：学生、児童、ジャーナリスト等）
- 文化的催し
- 表彰式
- 展示

## 公式サイト

[www.wlc16bali.com](http://www.wlc16bali.com)

## Eメール

[secretary@wlc16bali.com](mailto:secretary@wlc16bali.com)（現地事務局）

[wlc16@ilec.or.jp](mailto:wlc16@ilec.or.jp)（ILEC事務局：日本語対応可）





発行元： インドネシア共和国環境林業省



日本語版作成： 公益財団法人国際湖沼環境委員会